

各支部総会報告



宮崎地区支部合同同窓会報告
宮崎地区支部長 緒方克則

宮崎地区支部合同同窓会報告
宮崎地区支部長 緒方克則
今年も緒方支部長を始め、OB祭実行委員会からも焼酎会(宮崎高等学校)江藤幸作氏、東...

同窓会東京支部報告
東京支部長 大澤 忠廣



令和6年11月15日に開催した宮崎地区同窓会は、コロナ後に様々なイベントが開催される中、金曜日ということとなり例年より少ない73名の参加となりました。昨年同様、宮崎地区支部(緒方克則支部長)、宮崎県庁支部(河野明彦支部長)、宮崎地区支部(河野明彦支部長)、宮崎市役所支部(河野芳州支部長)の各支部長を始め、河野事務局長からの案内状送付や各々の声掛けで集まった同窓生は少ないながらも互いの親睦を深め、また久々の再会に顔をほころばせておられました。

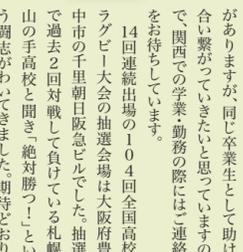
令和6年度総会は6月2日(日曜)千代田区「アルカディア市ヶ谷」に高鍋高等学校山尾典子校長、高鍋町黒木敏之町長、弦月会(大宮高等学校)藤田洋一氏、東京黒潮会(日...



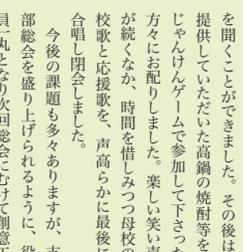
令和5年8月19日(土)湯河原「ひばり荘」において、在京同窓会会長による「宮崎県高等学校在京同窓会長サミット会議」を開催して在京同窓会の親睦をはかることの協議をしました。



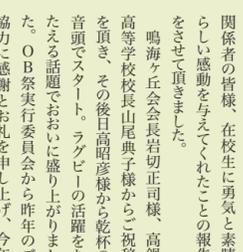
令和6年度総会は6月2日(日曜)千代田区「アルカディア市ヶ谷」に高鍋高等学校山尾典子校長、高鍋町黒木敏之町長、弦月会(大宮高等学校)藤田洋一氏、東京黒潮会(日...



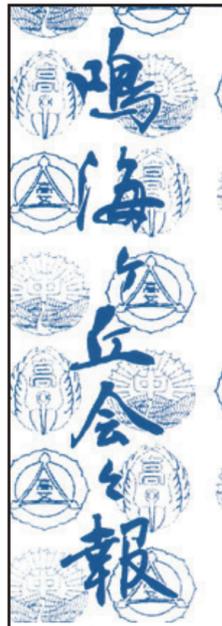
令和6年度総会は6月2日(日曜)千代田区「アルカディア市ヶ谷」に高鍋高等学校山尾典子校長、高鍋町黒木敏之町長、弦月会(大宮高等学校)藤田洋一氏、東京黒潮会(日...



令和6年度総会は6月2日(日曜)千代田区「アルカディア市ヶ谷」に高鍋高等学校山尾典子校長、高鍋町黒木敏之町長、弦月会(大宮高等学校)藤田洋一氏、東京黒潮会(日...



令和6年度総会は6月2日(日曜)千代田区「アルカディア市ヶ谷」に高鍋高等学校山尾典子校長、高鍋町黒木敏之町長、弦月会(大宮高等学校)藤田洋一氏、東京黒潮会(日...



高鍋高等学校同窓会
「鳴海ヶ丘会」 会長

岩切 正司



宮崎県立高鍋高等学校同窓会「鳴海ヶ丘会」の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また日頃より、同窓会活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和6年度、毎年恒例であり同窓会事業最大の行事である高鍋高校OB祭は、次の新時代への一歩を踏み出していく中で、これまでの歴史と伝統を継承しつつも時代の流れに沿った取り組みを展開し、世帯を超え「鳴海ヶ丘会」会員相互の親睦と交流を深め一層の充実と発展を目指し、また在校生と同窓生同士のつながりを再認識・構築させ母校の繁栄と地域の繁栄に寄与するとの想いから「つむぐ」時を人を想いを「を」をメインテーマに掲げ多田修一郎

実行委員長を中心平成13年度卒業生の皆様を担当しました。またOB祭事業のひとつとして地域の皆様と一緒に観覧することができ「記念花火」を打ち上げました。この取り組みは地域やOBの皆様への感謝の気持ちを伝えるとともに、同じ花火と一緒に見上げ、感動を共有することで世代や枠組みを超えて皆の心がひとつにまとまるよう、そして高鍋高校OB祭が一層の地域に愛される事業となるようとの想いが込められておりました。

令和7年度OB祭実行委員会 事務局長 児玉 行史



春寒の候、鳴海ヶ丘会の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より高鍋高校OB祭への格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

最後に同窓会事業、そして本年度の高鍋高校OB祭開催にあたり皆様の温かいご支援、ご協力に心から感謝とお礼を申し上げます。

OB祭は「在校生と同窓生、同窓生同士のつながりを再認識・構築させ、母校の繁栄と地域の繁栄に寄与する」事が最大の目的であります。目的達成のために私たちが掲げたテーマは「愛を夢くそして故郷(ふるさと)を想う」です。今回のOB祭を、地域のシンボルとして高鍋高校の価値を再確認するよう機会とし、OB・OGはもろろんのこと、在校生・先立方・地域住民の方々も楽しむことができるイベントにしたいと考えております。また、高鍋高校の精神とは明倫堂の精神と「国づくりの基本は人材育成であり、学校は、即ち人材を養成する地である」という精神であり代々受け継がれてきました。私たちがこの精神をしつかりと継承したいとの想いから、在校生にとつて進路選択のヒントを与えられるような機会、部活動生の意欲喚起につながるようなイベントの実施を目標としております。OB・OGにとっては高鍋高校の繁栄をサポートしたいと思う母校愛を深める機会とし、地域住民の方々にも高鍋町の活性化を感じられるようなイベントにしたいと考えております。

Table with 2 columns: 役職 (Position) and 氏名 (Name). Includes 実行委員長 (Executive Committee Chairman) 小倉 啓太, 副実行委員長 (Executive Committee Vice-Chairman) 江崎 亮祐, 笠松 洋介, 黒木 結衣, 事務局長 (Secretary General) 児玉 行史, 事務局長次 (Secretary General Deputy) 猪俣 和広, 高橋 知亜紀, 事業総務局長 (General Affairs Director) 遠藤 祐介, 事業推進局長 (Business Development Director) 鍋倉 敦, 事業運営局長 (Business Operation Director) 齋田 圭一.



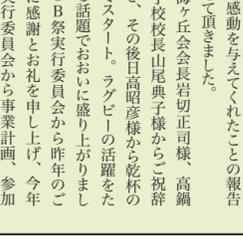
事務局からのお知らせ
同窓会事務局長 榎室 秀幸

令和6年度明倫堂金報告とお礼について
明倫堂金に多くの有志の方々より寄付を賜り誠にありがとうございました。この奨学金制度は皆様の寄付金により賄われております。どうか今後

令和6年度明倫堂金報告とお礼について
明倫堂金に多くの有志の方々より寄付を賜り誠にありがとうございました。この奨学金制度は皆様の寄付金により賄われております。どうか今後

令和6年度明倫堂金報告とお礼について
明倫堂金に多くの有志の方々より寄付を賜り誠にありがとうございました。この奨学金制度は皆様の寄付金により賄われております。どうか今後

令和6年度明倫堂金報告とお礼について
明倫堂金に多くの有志の方々より寄付を賜り誠にありがとうございました。この奨学金制度は皆様の寄付金により賄われております。どうか今後



鳴海ヶ丘会会長岩切正司様、高鍋高等学校校長山尾典子様からご祝辞を頂き、その後日高昭彦様から乾杯の音頭でスタート。ラゾビの活躍をたのめる話で盛り上がりました。

川南支部交流会報告
支部長 宮崎 吉巨敏

鳴海ヶ丘会川南支部交流会を令和7年1月25日、ホテルカワミエにて、鳴海ヶ丘会会長岩切正司様、高鍋高等学校校長山尾典子様、高鍋高等学校副校長山尾典子様、高鍋高等学校教員3名、支部会員46名、合計54名の参加を頂き、盛大に開催を致しました。私から「来賓はじめたくさんのご参加を頂き感謝」と御礼と昨年末の全国高校ラグビー大会での1回戦の勝利、また2回戦の大分東明との闘いは引き分け抽選という結果で3回戦には進むことが出来ましたが、多くの同窓会の皆様、関係者の皆様、在校生に勇気づけられたことへの報告をさせて頂きました。





令和6年度高鍋高校OB祭(令和6年8月9日・10日)の実行委員を代表して、皆様にお礼を申し上げます。この度は、令和6年度高鍋高校OB祭にご協力いただき、誠にありがとうございました。また、ご支援いただいた協賛金などを活用させていただき、高鍋高校に、放送機器一式、カラーコーン一式を寄贈することができました。今後、諸経費を差し引き、全額を明倫奨学金とお知らせいたします。



令和6年度高鍋高校OB祭実行委員長
多田 修一郎

高鍋高校への寄付とさせていただきます。私は平成13年度に高鍋高校を卒業して、12年ほど地元を離れておりました。30歳の時に家業を継ぎ、厄年である42歳の年にOB祭の実行委員長を引き受けました。今回のOB祭のテーマは、「つむぐく時を人想いを」でした。高鍋高校には102年の歴史があります。そこで企画したのが、高鍋高校の校舎や敷地をお借りして行ったセンパイフェスというイベントでした。高鍋高校を卒業した先輩方、現役の高校生、地元の企業の方々をつむぐ、魅力を発信できるイベントにしたい。私たち実行委員のメンバー(同級生)が根気強く一緒に歩んでくれたかはその為し得ることができたと思っております。この経験をきっかけに、さらに地元のことを好きになり、高鍋高校卒業生で良かったと感じた次第です。令和7年度のOB祭も後輩たちが一生懸命準備しています。彼たちに私たちの想いをつむぎ、次年度も盛大に開催されるよう、引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いたします。

令和7年度高鍋高校OB祭実行委員長
小倉 啓太



令和7年度高鍋高校OB祭の実行委員を代表してご挨拶申し上げます。平成14年卒業の小倉啓太と申します。令和6年度は「つむぐく時を人想いを」というテーマのもと多田実行委員

長を中心にゴルフコンペ、懇親会に加え、従来のOB祭とは異なる要素を盛り込んだ母校「高鍋高校」にて行う「センパイフェス」を計画され、準備期間の限られた中で素晴らしいイベントを開催していただきました。私も補助員として運営側で参加しましたが、在校生の「ギャリアデザイン」を主眼に置いたマルシェ(市場)は、在校生、地域の子ども達が学べ、同窓生、地域の方々が楽しめるものであったと思います。会場には同窓生同士また世代を超えた交流が生まれ、在校生が地域のお年寄りを案内する姿、数十年前に再会をした同窓生同士が涙ぐみながら抱き合う姿を目の当たりにして、熱いものがこみ上げてくるのを思い出しました。さて、私たちもそれらを引き継ぎ形で11月に実行委員会を設立し、「愛×夢×そして故郷(ふるさと)を想う」をテーマに掲げ、現在、紆余曲折しながらもOB祭の目的を達成するために計画を練っている最中です。在校生には愛校心のもと高鍋高校を在校生としての誇りを持ってもらい、同窓生には学び舎が集って母校愛をより一層育む機会にしたいと、地域の方々には高鍋高校の存在意義を再確認していただき、それが地域愛に発展するような、まさに「唯一無二」のイベントにしたいと考えています。

「同窓会育英会表彰」代表者

河野 剛大	井上 佑人
尾崎 光	中津 陽香

内容	学級	生徒氏名(上段:ふりがな、下段:名前)
同窓会育英会表彰(普通科)*	301	かわの こうだい 河野 剛大
	304	いのうえ ゆうと 井上 佑人
同窓会育英会表彰(探求科学科)	306	おざき ひかり 尾崎 光
同窓会育英会表彰(生活文化科)	307	なかつ はるか 中津 陽香

*301~303から1名、304~305から1名選出

クラス代表世話人

クラス	評議員	生徒氏名 (上段:ふりがな、下段:名前)	評議員	生徒氏名 (上段:ふりがな、下段:名前)
301		のむら こうごう 野部 巨虹		おおはら かりん 大原 果梨
302	○	さいとう こうき 齊藤 暁希		しいのき ゆうき 椎木 悠稀
303		くきた ゆうと 久木田 優人		よしうら みづき 吉浦 美月
304		にしむら かいと 西村 開人	○	たかはし さあや 高橋 朝彩
305		くぼた こうすけ 久保田 康佑		おだ ちなつ 尾田 千葉津
306		にしだ しんのすけ 西田 慎之介		やまぐち ゆま 山口 侑真
307		おちあい まあや 落合 真彩		やまさき りな 山崎 莉奈

令和6年度部活動実績一覧(7月以降)

ホッケー部	令和6年度全国高等学校総合体育大会ホッケー競技大会 3位
	令和6年度国民スポーツ大会第44回九州ブロック大会ホッケー競技 優勝
	令和6年度 第78回国民スポーツ大会ホッケー競技 少年女子の部 5位
	令和6年度全九州高等学校選抜ホッケー大会 準優勝
ラグビー部	令和6年度第56回全国高等学校選抜ホッケー大会 ベスト16
	第104回全国高等学校ラグビーフットボール大会出場(2回戦引き分け抽選) 第11回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会プレートの部3位
音楽部	音楽部 「第46回宮崎県高等学校総合文化祭 合唱部門 全国大会選抜賞」 追記(R7全国高総文祭への出場権をいただきました)
文芸部	第46回高等学校総合文化祭 文芸部門 詩部門 最優秀賞(第1席) 304 黒木海月(くろぎ みつき)
	②九州高文連主催 第9回全九州大会福岡大会 文芸部門 詩部門 優秀賞(第2席) 304 黒木海月(くろぎ みつき)
	③全国高文連主催 全39回全国高等学校文芸コンクール 詩部門 入賞(第8席) 307 西木場楓花(にしこば ふうか)



入賞
おめでとう
ございます。



花園を終えて
ラグビー部主将 河野 剛大

私たちはこの一年間、花園ベスト8という目標のもと、練習に励んできました。全国の競合に勝つにはどうしたらよいか、チーム全員で試行錯誤を重ねてきました。そして迎えた花園、一回戦の札鞆山の手戦では、苦しい時間帯もありましたが、デフエンスから流れを作り、無事勝利することが出来ました。二回戦の相手は、九州王者であるBシールド大分東明高校でした。開始直後に失点を重ね焦りもありましたが、チーム全員で声をかけ合いながらプレーすると練習してきたことが通用し、逆転することが出来ました。終了間際になり追いつかれ、同点で試合終了となりました。次戦出場権をかけて抽選となり、結果、三回戦に進むことは出来ず、負けず花園を去りました。最後に、これまで私たちへのたくさんの応援、ご支援をしていただき、本当にありがとうございました。今後とも、高鍋高校ラグビー部への応援よろしくお願致します。



全国選抜大会を終えて
ホッケー部主将 日高 夏芽

私たちホッケー部は、12月21日から開催された全国選抜大会に出場しました。初戦は奈良県の高鍋高校卒業生で良かったと感じた次第です。令和7年度のOB祭も後輩たちが一生懸命準備しています。彼たちに私たちの想いをつむぎ、次年度も盛大に開催されるよう、引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いたします。

なんきんはぜ

2度目の母校勤務 長谷川 岳洋

昭和56年度本校を卒業し、平成元年から4年間の勤務を経て今回2回目の母校勤務になります。校舎は依然と変わらなく、懐かしい環境で楽しく勤務させてもらっています。

1度目の勤務は全国18歳人口が200万人を超えるピーク時。現在全国18歳人口は100万人程度。この地域も少子化が進み、高鍋高校は1学年6クラスの時代に突入しました。しかし、生徒数は減っても生徒と職員が元気に頑張っています。

時代の流れの中で教育改革が求められ、本校は他校に先駆けて新しい取組にチャレンジしています。これからの時代に求められる力を伸ばすため探究学習の充実を目指し、学習評価とテストの在り方改革にも取り組んでいます。定期テストは廃止、各教科ごとに実施する単元テストで小まめな評価、点数中心の評価から脱却して「観点・知識技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」による評価・生徒の努力や成果を多面から捉える形に変わっています。

変化だけでなく歴史と伝統も大事にされています。「明倫堂の精神は確実に継承され、校内では「正姿」、「心身学道・師弟同行」、「文武両道」、「集中・機敏奉仕」、「真善美」など、高鍋高校の心が受け継がれています。秋月種茂公と上杉鷹山公の繋がりは、毎年行われる米沢興譲館高校との交流の中で若い世代に引き継がれています。

創立100年を過ぎ、世の中が移り変わり方法が変わっても、時代を見据えた教育実践で地域に信頼される学校を目指しています。我が母校はこれからも生徒と地域のために頑張り続けます。今後とも皆様のご支援をよろしくお願致します。